

MJOT 会報

ご挨拶申し上げます

運営委員会代表：キッシュ・シャーンドルネー

バーリント・マールトン小中高校

この度は皆さんの信任を得まして、運営委員会の代表に選ばれました事、深く感謝いたしております。私達ハンガリーの日本語教師が互いに協力し合って、教育に携わって行こうという気持ちがこの会を設立させました。

今まで代表として活躍された方々の後を追いながら、新しい要望に合わせて、教師と学生の皆さんのために努力して行きたいと思えます。あまり自信はありませんが、十年ぐらいの経験を生かして、皆さんにサポートされながらベストを尽くしたいと思えます。よろしく願いいたします。

運営委員会庶務：セーカーチ・アンナ

ブダペスト商科大学貿易学部

二年間続けて MJOT 代表を務めさせていただきまして、誠にありがとうございました。この二年間はさまざまな催し物、セミナー活動、できごとなどがありました。なかではシンポジウムもあり、その時は実行委員会、そのあとは運営委員会の協力を得て、皆さんには大変お世話になりました。この場を借りて、お礼を申し上げます。新しい代表 Kiss 先生とバトンタッチしまして、今後も運営委員会のメンバーとして MJOT のために活動して行きたいと思えます。会員の皆さん、どうぞよろしくお願い致します。

シンポジウム参加報告

ブダペスト商科大 鈴木 愛

新学期が始まって間もない頃、9月12日から14日までの3日間にわたり、スイスのベルン市において第8回ヨーロッパ日本語教育シンポジウムが開催されました。昨年のブダペスト大会で、運営委員会の一員としてはじめてこのシンポジウムに参加しましたが、裏方の仕事のために講演や発表などをなかなか聞くことができなかったことがとても残念でした。今回は昨年の分まで、と言っただけですが、このシンポジウムを十分楽しむことができました。

今回のシンポジウムでは『マルチリンガリズムと日本語教育〈ヨーロッパからの発信〉』というテーマが掲げられ、鈴木孝夫氏による「脱西洋中心主義を目指した日本語教育」と題した基調講演を皮切りに、23の研究発表、ワークショップ、パネルディスカッション、他2つの講演が行われました。22カ国からこれまでで最も多い172名もの参加があり、このシンポジウムがヨーロッパにおける日本語教育の大きなイベントの一つとして定着してきたと言えるでしょう。また参加者それぞれが、かなり詰まったプログラムにも関わらず、最後まで熱心に発表や講演に耳を傾けていたことが印象に残っています。

【今ヨーロッパにおける日本語教育全体に求められているのは、従来の日本語教育を特殊扱いする姿勢を抜け出して、各国、各機関における教育事情と折り合いながら「限られた学習時間数の中でいかに効率よく日本語学習を進めて行くか」に向けての発想の転換、新たな戦略ではないだろうか】これはパネルディスカッションでの議題となった問いかけです。EU という枠組みが拡大し、強固になっていく流れの中で、国の言語政策が変わり、核学校のカリキュラムも変化していく…。このことはハンガリーにおいても現場の各先生方がひしひしと感じていることだと思います。その中で、日本語教育を根付かせていくために私たちは何をすればいいのか？もちろん教師一人一人が考えなくてはならないことですが、幸いハンガリーには教師会と言う組織があって、これからどうしたらいいのか、みんなで知恵を出し合い、一緒に考えることができます。「ヨーロッパからの発信」の前にまず「ハンガリーからの発信」を積極的にしていくことで、それがヨーロッパの、ひいては世界の日本語教育につながっていくのではないかと感じました。

(ここで一つ提案なのですが、来年は教師会の代表が一人、教師会の予算で行くって言うのはいかがでしょうか。やっぱり無理ですよ…。)

ヨーロッパ日本語教師会 HP

<http://castel.j.soken.ac.jp/groups/aje>

第9回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム

2004年8月26日～28日 フランス・リヨン市



はじめまして、どうぞよろしく!

2003年9月以降に入会された会員は6名(正会員四名+準会員二名)。
今回はそのうち3名の方をご紹介します。

大久保理恵さん

はじめまして。JOCV15年度1次派遣の大久保理恵です。
バビジ・ミハイ高校で教え始めて、早いことに2ヶ月が経とう
としています。良くも悪くも生徒達は私に慣れてきたようで、日
本語じゃなくてハンガリー語でコミュニケーションをとろうとしま
す…。いかに「日本語を話そう」と思わせるかが今の目標で
す。その他問題は山積みですが、これも勉強ということで頑張
ります。ストレスがたまったときは、料理、散歩、ストレッチで
りきってます。みなさん、どうぞよろしくお願ひします。

Nagy Zsafia Krisztina さん

はじめまして、ナジ・ジョーフィアで
す。私はカーロリ大学の五年生です。
来年、卒業した後、教師になりたいで
す。今も大学で教えることを練習して
いて、とても面白く、楽しんでます。
教えることはとても素晴らしい事だ
と思います。

どうぞ、よろしくお願ひします。

上羽 貴子さん

ヴァーツのゲーザキライ経済
高校で9月から教えている JOCV
の上羽貴子(うえばよしこ)です。
大阪生まれの大阪育ちなので、気
をつけないと、つい大阪弁が出て
しまいます。教師としてまだまだ
未熟ですが、この2年でたくさん
学びたいと思います。



コーヒー

ブレイク

「シベリア追跡」 椎名 誠 著

(集英社文庫)

ロシアの日本語教育はカムチャッカ半島に漂着した漁民が日本語教師となって、1705年
にペテルブルグで始まった。1782年大黒屋光太夫が船頭の神昌丸は八カ月の漂流のあとア
ルーシャンの小島に漂着した。そして、それからシベリアを横断し、漂流民の内の2名は
ペテルブルグ日本語学校の移転先、イルクーツクで日本語教師になる。(1791年)

この本で、「ほほ～お!」と感じる所がたくさんある。その1つは、椎名氏らが旅した
1980年代のソビエトの人々の生活。そして、ロシアの大きさとシベリアの冬の苛酷さ、日
本語教師となった新蔵と庄蔵のわずかばかり残された足跡である(これは自分が日本語教
師だからなのかもしれないが)。自分も現代の漂流民日本語教師かなと考えた。(Gotó)

このコーナーでは肩がこらない楽しい本をご紹介します。たまたま手にした
本に日本語教育に関することが出ていたり、授業に使える情報が載っていたりすると、うれしくな
りませんか。私だけ? 皆さんもそんな本に出会ったらお知らせ下さい。 情報、待ってます!

MJOT・基金 Bp.事務所合同企画
日本語教育講演会開催のお知らせ

日本語の変わるしくみ

講師：井上 史雄 教授

日時：2003年12月12日（金）17：00～
場所：国際交流基金ブダペスト事務所図書室

運営委員会からのお知らせ

2004年に開催予定の第12回日本語スピーチコンテスト実行委員として、運営委員会で吉瀬友佳子先生にお願いしましたところ、ご本人よりご快諾のお返事をいただきました。この紙面を借りまして、皆さんにお知らせします。尚、スピコン実行委員会は各関係機関（大使館・基金・JICA・JOCV・MJOT）の代表者で構成されています。MJOTからは Kiss 先生と吉瀬先生が出席します。



MJOT セミナー①のお知らせ

日時：2003年11月14日（金）

17：00～

場所：基金 Bp.事務所研修室

テーマ：ひらがなの導入

発表者：後藤 史与

カーロリ大 BTK 日本学科

※ 当日、授業で実際に使用している「ハンガリー人のためのひらがな・カタカナ」（佐藤紀子他編）の販売を予定。また、一般市販されている文字指導の教科書も紹介します。

---日本語教育教材の情報---

「歌から学ぶ日本語」

こどもからおとなまで楽しめる歌の CD 付音楽を聞いて歌って日本語がおぼえられる

カーロリ大日本学科にあります。各教育機関の日本語教育で、授業に役立てたいとお考えの先生は、後藤にご連絡ください。全曲をテープにダビングします。歌詞・指導テキストなどのコピーは各自で、お願いすることになりますが…。

CD 内容はメールにて、お問い合わせください。

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

…編集担当者より…

MJOT が正式発足して3年半が経ちました。人間で言えば3歳。よちよち歩きの間頃も過ぎ、しっかりと大地を踏みしめて歩き始める年齢です。私達日本語教師のこの会も同様の成長をしてきたと考えられないでしょうか。今年度もセミナーなどの活動を活発に行っていきましょう！皆さんの積極的な参加をお願いします。また、「会報」への投稿もお願いします。

発行者：ハンガリー日本語教師会 (MJOT)

「会報 第9号」

2003年10月30日発行

編集者：Székács Anna

後藤 史与